

次世代リーダー育成部会

実施報告

研究のねらい

経営に Creativity を！

～新しい時代への挑戦～

日本社会における少子高齢化の進行は社会経済に多大な影響を及ぼすとされ、学校教育も例外ではない。さらに、価値観や学びの形態の多様化によって学校教育の意義が問われている。次世代経営後継者には過去を継承しつつも、かつて無い混迷を打破するための Creativity を発揮していくことが求められている。

今年度当部会は時代の変革を先導し近代日本への道を拓いた鹿児島で「経営に Creativity を！～新しい時代への挑戦～」を研究のねらいに開催する。私学の経営後継者が新しい時代に挑戦するために創造性を武器に未来の経営ビジョンをデザインする一助となれば幸いである。

私学のトップリーダーによる講話、開催地にゆかりのあるマルチクリエイターによる講演、鹿児島情報高等学校の学校視察、知覧特攻平和会館で歴史施設教育視察を行う。意見交換会・ネットワーキングパーティ等の交流プログラムでは、リーダーが本音で語り合うネットワーク構築の機会を提供する。

会 期 令和6年11月28日(木)～29日(金)

会 場 SHIROYAMA HOTEL kagoshima(城山ホテル鹿児島)

[鹿児島県鹿児島市]〒890-8586 鹿児島県鹿児島市新照院町 41-1 (JR「鹿児島中央駅」車約10分)

参加人数 39名

参加対象

A. 次世代経営後継者(次世代の理事長・校長等)

B. 現職経営者(現職の理事長・校長等)

C. Aに準ずる経営幹部・管理職候補者(理事長・校長が推薦する副校長・教頭等)

※参加対象校: 都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

プログラム

講 話 吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所理事長
日本私立中学高等学校連合会会長

講 演 「地域社会におけるクリエイティブ産業の挑戦と機会」
佃 永喜 株式会社 HEIYA 代表

意見交換会 討議テーマ「経営に Creativity を！～新しい時代への挑戦～」

①少子化・多様化時代の経営ビジョンとブランディング

②若者の創造性を活かす教育のデザイン(AI・ICT活用、PBL、グローバル教育など)

③未来を見据えた組織強化(教員採用及び育成、働き方改革など)

～参加者主導によるグループ討議で、喫緊の課題を共有します～

ネットワーキングパーティ(着席形式) ～初日を振り返り、参加者・関係者が語り合い絆を深めます～

学校視察 鹿児島情報高等学校 〒891-0141 鹿児島県鹿児島市谷山中央2-4118(会場ホテルから車約30分)

歴史施設教育視察 知覧特攻平和会館

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	20
	15			10	30	30 40	40 50		20 30		30 40	
初日					受付	開 会 式	講 話	講 演		意 見 交 換 会		ネ ッ ト ワ ー キ ン グ パ ー ティ
2日目	移動	学校視察 鹿児島情報高等学校	移動	昼食	移動	歴史施設教育視察 知覧特攻平和会館		移動				

※プログラム・内容は変更となる場合があります

◇主催 一般財団法人日本私学教育研究所 ◇後援 日本私立中学高等学校連合会



☆研修会日程☆

【1日目】 11月28日(木)

〔会場〕 SHIROYAMA HOTEL kagoshima

12:30～ 13:00	受付	《全体会場》 2階 アメジスト
13:00～ 13:30	開会式	司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長 ☆開 会 ☆主催者挨拶 平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長 ☆開催地代表挨拶 原田 賢幸 鹿児島県私立中学高等学校協会会長 ☆研修会運営方針説明 菅沼 宏比古 次世代リーダー育成専門委員長 ☆来賓・役員・専門委員紹介／日程説明
13:40～ 14:40	講話	吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所理事長 日本私立中学高等学校連合会会長（中央教育審議会委員）
14:50～ 16:20	講演	司会 前田 均 次世代リーダー育成専門委員 ☆演 題 「地域社会におけるクリエイティブ産業の挑戦と機会」 ☆講 師 佃 永喜 株式会社 HEIYA 代表
16:30～ 18:30	意見交換会	《分科会場》 3階 ロータス（1／2／7／8／10） 討議テーマ 「経営に Creativity を！～新しい時代への挑戦～」 ①少子化・多様化時代の経営ビジョンとブランディング 小テーマ ②若者の創造性を活かす教育のデザイン(AI・ICT活用、PBL、グローバル教育など) ③未来を見据えた組織強化(教員採用及び育成、働き方改革など) ※ 5グループに分かれて、小テーマ及び事前アンケートで回答いただいた喫緊の課題等を中心に、参加者がファシリテーターをつとめ意見交換を行います。
18:40～ 20:00	ネットワーキングパーティ (着席形式・自由席)	《会場》 4階 パール 司会 梅村 光久 次世代リーダー育成専門委員 ☆開会挨拶 平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長 ☆乾 杯 ☆懇 談 ☆閉会挨拶 森 涼 次世代リーダー育成専門委員

【2日目】 11月29日(金)

※移動は貸切バス利用

8:15～ 9:00	移動 (※SHIROYAMA HOTEL kagoshima から貸切バスで視察校へ)
9:00～ 11:00	鹿児島情報高等学校視察 【視察プログラム】 ○施設・授業視察 ○視察校代表挨拶 新納 武彦 鹿児島情報高等学校校長 ○全体会(学校取組み紹介等、質疑応答) ○お礼のことば・総括 菅沼 宏比古 次世代リーダー育成専門委員長
	移動 ※
11:10～ 12:00	昼食【奄美の里】
	移動 ※
13:00～ 14:20	歴史施設教育視察【知覧特攻平和会館】 同館の語り部による解説(30分程度)を聴講した後、館内を見学します
14:30～ 16:00	移動 (※鹿児島中央駅経由(15:20着予定)、SHIROYAMA HOTEL kagoshima へ) 解散

※プログラム・内容は変更となる場合があります

講師紹介 佃 永喜(つくだ えいき) 株式会社 HEIYA 代表

鹿児島県出身。

フリーランスを経て2014年に株式会社 HEIYA 設立。

鹿児島を拠点に地元の企業、代理店、TV局、教育機関との関係を築きつつ、近年ではテレコムアニメーション・フィルム、太陽企画と提携し新たな業務開拓・可能性を模索中。



視察校紹介 鹿児島情報高等学校

理事長 原田 賢幸 校長 新納 武彦

学校法人原田学園は、創立から69年目を迎えております。認定こども園、高等学校、専門学校、療育事業、スポーツ事業等を運営し、“『心の持ち方』を共に学ぶ学園”を創設の理念として掲げ、社会で躍進できるための学びを届けることを念頭に日々教育活動に取り組んでおります。

本学園の中核を担う鹿児島情報高等学校(JOHO)では、生徒一人一人のワクワクを実現していくため、8つの学科にて学びを展開しており、その中でも特に次のことに取り組んでおります。

“『JOHO 未来タイム』”

未来に必要な学びや体験を44講座(令和6年度前期開設数)の中から、生徒のワクワクにマッチングした講座を自由に選択することができます。これは、普通科系・工業科系・商業科系の8つの学科がある情報高校だから実現した取り組みです。

“生徒・保護者・教職員のウェルビーイングを実現”

本校が重視しているのは、VUCAの時代を生きるための「創る学び」や「体験する学び」です。プロジェクト型の学習やICTを活用した授業、地域貢献で社会とつながることで、自律のための6つの力を身に着けます。また、生徒・保護者のウェルビーイングを実現するため、教職員はコーチングやトーチングで生徒の心に火をつけます。



◆ 講師・指導員 (順不同) ◆

佃 永喜	株式会社 HEIYA 代表
原田 賢幸	学校法人原田学園理事長
新納 武彦	鹿児島情報高等学校校長
吉田 晋	富士見丘中学高等学校理事長・校長
平方 邦行	一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

◆ 専門委員・指導員 (順不同) ◆

菅沼 宏比古	学校法人西海学園理事長
森 涼	学校法人石川高等学校・石川義塾中学校理事長・校長
梅村 光久	学校法人三重高等学校理事長
前田 均	鹿屋中央高等学校理事長・校長
川本 芳久	一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長

●実施概要●

11月28日(木)～11月29日(金)、鹿児島県鹿児島市・SHIROYAMA HOTEL kagoshima(城山ホテル鹿児島)において「経営に Creativity を！～新しい時代への挑戦～」を研究のねらいに開催、30 都府県から 39 名が参加した。

初日の開会式では、平方邦行・当研究所理事・所長の主催者挨拶、原田賢幸・鹿児島県私立中学高等学校協会会長の開催地代表挨拶に続いて、菅沼宏比古・次世代リーダー育成専門委員長が運営方針を説明した。吉田晋・日本私立中学高等学校連合会会長／当研究所理事長からの講話、佃永喜・株式会社 HEIYA 代表を講師に迎えての講演「地域社会におけるクリエイティブ産業の挑戦と機会」を行った。5 グループに分かれての意見交換会、ネットワーキングパーティでは、参加者は喫緊の課題について本音で意見を共有するとともに、交流を深めた。

2 日目は、鹿児島情報高等学校で学校視察を行った。学校視察では、テクニカルセンターでの施設・授業視察につづき、全体会では最初に吉田晋・当研究所理事長が視察団を代表して挨拶を行った後、新納武彦・視察校校長による視察校代表挨拶・学校紹介、起業した生徒による発表、卒業支援センター MiraIe の取組、そして、学校法人の働き方の取組等の様々な発表・紹介が行われた。最後に菅沼宏比古専門委員長がお礼のことば・総括を述べ、学校視察を終えた。午後の歴史施設教育視察【知覧特攻平和会館】では、参加者は同館の語り部からの講話を聴講後、館内を自由に見学した。2 日間の研修会は成功裡に終了した。

参加者からは来年度も参加したいという声が多くあり、非常に充実した研修会となった。

○開会式○

開会式では、平方邦行・当研究所理事・所長の主催者挨拶、原田賢幸・鹿児島県私立中学高等学校協会会長の開催地代表挨拶に続いて、菅沼宏比古・次世代リーダー育成専門委員長が運営方針を説明した。主催者挨拶、開催地代表挨拶、運営方針説明のすべてに共通して述べられたのは、当研修会を通じて本音で語り合えるネットワークを構築してほしいということであった。本音で語り合えることの大切さや、そうしたネットワークが経営の助けになることが強調され、本音で語ることは今次研修会の重要なテーマの1つであった。



○講話○

吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長
日本私立中学高等学校連合会 会長（中央教育審議会委員）

私立学校が一校一校それぞれの思いをしっかりと打ち出していくとき、学校の経営を考えるならば一校一校ではなく全体で動く必要がある。高校以下の私立学校はこれからも存続していかないといけない。そうしたときに考えないといけないのは、STEAM 教育をする文理融合の時代であるということ、良い先生を採用するために、特別免許状を積極的に活用すること、加えて、海外から日本にきた人たちの家族にいかにか日本の教育を受けさせて、「外国人日本人」にするかということだ。日本人の持つ温かい心で、地域で育てればできると思っている。寮のある学校は国と協力して日本人作りをやるべきだろう。生成 AI の問題については、これからの社会で必須になる生成 AI の使い方を教えないといけない。SNS と同様に、生成 AI に振り回されるのではなく、利用する側にならないといけない。私立学校がこれからも頑張っていかなければ日本の教育は良くならない。できることとできないこととはっきりと言えるのが私立学校だ。我々は決してサービス業ではない。しかし、日本の 21 世紀、22 世紀を担う財産ともいえる子どもにより良い教育を行っている。将来を見据えて暗くなるのではなく、明るくやらなければならない。



○講演○

「地域社会におけるクリエイティブ産業の挑戦と機会」

佃 永喜 株式会社 HEIYA 代表

講演は、Slido を用い参加者の質問に答えながらすすめられた。株式会社 HEIYA の事業を実際の動画やグラフィック等を提示しながら紹介し、クリエイティブ産業とはまた、アニメーションやゲーム産業の現状について説明した。その後、以下の4つのテーマや事前に参加者から寄せられた質問について、回答した。

起業について：積極的に法人化を使用していたというよりも、取引先からの要望もあり、法人化した。ビジョンを持つことは当然大切なことだが、状況や環境や需要にあわせて対応していくのが大事だと思っている。取引先からの要望や相談を受けて、未経験のことで積極的に取り組むことで、経験がうまれて、現在に至っている。

企業経営において重視していること：チャレンジ・経験・失敗だと思っている。何事もあたらしいことへのチャレンジが重要だ。それが経験になり、がクリエイティブにも活かせる。そのなかで、失敗もある。社員には失敗してほしいと伝えています。積極的でない生徒に対してしてどうするのかという質問に対して。第三者から言われても響かない。自分自身が気づくことが大事という話をしたが、失敗した経験が次につながる資産として本人に刻まれることが大事だと考えている。そのために、失敗を許容できる会社でありたいと思っている。

社員に求める創造性や創造性を発揮する環境整備や育成について：チャレンジ・経験・失敗だと思っている。加えて、機材・環境整備については、いまどんどん新しいものが安く出回っており、また、新しいものが良いことがあるので、そこそこのスペックの機材を2~3年で変えていくことを考えている。

今後の展望について：鹿児島でオリジナルアニメーションができないかと考えている。なぜアニメーションかという、アニメーション制作の受注が海外に流れている現状がある。日本からの外注によって、海外でアニメづくりの技術が蓄積されていっている。それは非常にもったいないと思っている。海外ではなく、アニメーション制作の技術を地方で受け止めて、継承することをやりたい。そうした作成技術の蓄積とともに、若い人がアニメの仕事をしようとすると鹿児島ではまだまだ仕事が少ないが、鹿児島でもそういう仕事ができるということになれば、一つの受け皿になると考えている。



○意見交換会○

5つのグループに分かれて、「経営に Creativity を！～新しい時代への挑戦～」をテーマに意見交換会を行った。今年度は、より3つの小テーマ①少子化・多様化時代の経営ビジョンとブランディング、②若者の創造性を活かす教育のデザイン(AI・ICT活用、PBL、グローバル教育など)、③未来を見据えた組織強化(教員採用及び育成、働き方改革など)を設定した。参加者は本音で語り合い、有意義な情報を交換するとともに日頃の悩みや課題を共有した。



○ネットワーキングパーティ○

平方邦行・当研究所理事・所長の開会挨拶に続き、参加者より指名された公文晶子・公文国際学園中高等部副校長が乾杯の挨拶を行った。参加者は意見交換会につづき、幅広く情報を交換し、ネットワークを構築した。参加者の各テーブルからの代表者による挨拶の後、吉田晋・当研究所理事長が参加者へメッセージを送った。最後に、森涼・次世代リーダー育成専門委員より閉会の挨拶があり、初日を締めくくった。



○学校視察○

鹿児島情報高等学校の学校視察では、最初に施設・授業見学を行った。つづく全体会では、吉田晋・当研究所理事長が視察団を代表して挨拶を行ったあと、新納武彦・鹿児島情報高等学校校長からの学校紹介、同校生徒による起業についての実践発表、卒業支援センターMiraleの取組み、同校の働き方の取組み、質疑応答が行われた。最後に、菅沼宏比古・次世代リーダー育成専門委員長がお礼のことは・総括を述べ終了した。同校の先進的な取り組みは、参加者から参考になったという意見が寄せられた。



○歴史施設教育視察【知覧特攻平和会館】○

歴史施設教育視察として知覧特攻平和会館を見学した。同館の語り部による、講和を聴講した後、参加者は館内を見学した。参加者からは、プログラムに知覧特攻平和会館の視察を入れていただいていたよかったです。同館の視察には胸をうたれた。といった感想が寄せられ、参加者の心に残る視察となった。



●都道府県別参加者数●

No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数
1	北海道	0	17	石川	0	33	岡山	2
2	青森	0	18	福井	0	34	広島	4
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	0
4	宮城	1	20	長野	0	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	0	37	香川	0
6	山形	0	22	静岡	1	38	愛媛	1
7	福島	2	23	愛知	1	39	高知	0
8	新潟	0	24	三重	0	40	福岡	5
9	茨城	1	25	滋賀	0	41	佐賀	1
10	栃木	1	26	京都	1	42	長崎	1
11	群馬	0	27	大阪	1	43	熊本	1
12	埼玉	2	28	兵庫	0	44	大分	0
13	千葉	0	29	奈良	2	45	宮崎	0
14	神奈川	2	30	和歌山	0	46	鹿児島	4
15	東京	5	31	鳥取	0	47	沖縄	0
16	富山	0	32	島根	0			
					20 都府県	計		39

●参加者アンケート●

回答者：13名／参加者：39名（回答率33.3%）

内オンラインフォーム回答数：13（利用率100%）

○講話について

- ・私学の独自性、私学人のあり方、行政との対応状況について学ぶことができました。吉田先生の講話は今後も継続してお願いしたい。
- ・私学のリーダーとして、ずっと先の未来まで見据えながら、私学教育のあるべき姿について語られている、その姿勢に改めて感嘆しました。私学人としてのぶれない堂々としてご発言にも勇気づけられました。
- ・吉田先生の教育への熱意がひしひしと伝わってきた。人を育てることの重要性をもっと声を大にして伝えていかねばと痛感した。
- ・生徒数を維持し、私学としての使命を果たすために、多くの創造性や工夫、手段があるということを再認識しました。

○講演について

- ・偏差値だけでははかれない力について改めて考えさせられた。「チャレンジ、経験、失敗」の姿勢に共感した。
- ・一つの「好き」が、未来を開く可能性をひめていること。そして、そこには必ず人との出会いがあり、その出会いに勇気を持って一歩踏み出すことを生徒にも伝えようと思った。
- ・クリエイティブの最前線でご活躍され、楽しそうに講演されていたのが印象的でした。難題があっても最前線で楽しく仕事がしたい。
- ・チャレンジ、経験、失敗。主体的に学ぶ、想像する、つながることの重要性が特に学校教育の中でクローズアップされるべきと感じた。
- ・今までの講師とは一線を画す内容であり、個人的には非常に学びの深い講演だった。
- ・紹介しきれなかったであろう教育業界とのお話をもっと聞きたかった。

○意見交換会について

- ・普段共有できない悩みを本音で話せた。
- ・具体的な実践事例は大いに参考になったまた、管理職にしか分からない職場における課題が共有できた。
- ・ざっくばらんに様々な話をするのができたが、事前のテーマに沿ったものだったかどうかは疑問が残った。

○ネットワーキングパーティについて

- ・他の意見交換会の様子を知ることができ、とても楽しいひとときを過ごせた。
- ・多くの方と繋がりが作れたので満足しているが、交流型の活動時間をもう少し増やせばより多くの方と交流する時間ができたのではないかと感じた。
- ・意見交換会のメンバーが同席となり、より懇親を深める機会となった。

○学校視察について

- ・学校の特色がしっかりとあり、理事長のリーダーシップのもと、それぞれの先生の役割で、生徒や教職員のために、そして学校のために、より良くなるように改善しようと試みているところが、とても勉強になった。
- ・企業的な運営の部分が参考になった。
- ・本校の管理職にも還元したい内容であった。
- ・施設はもちろんだが、労働環境・人事評価についてかなり先進的な取組をされており、大変参考になった。時間が許せばもっと施設全体を回りたいかった。

○その他（要望等について）

- ・知覧特攻平和会館の視察は、胸を打たれた。平和教育の題材にしたい。
- ・知覧特攻平和会館を見学先として入れていただいたのは大変よかった。
- ・中身の充実した素晴らしいプログラムだった。
- ・教育科学の最前線がどこまでいっているのか、そうした内容の講演を聞きたい。
- ・大学のアントレプレナーシップの事例について、発表を聞く機会があればと考えている。
- ・将来トップに立たれる方が出席しているので、リスクマネジメントに関する講演も良いのではと感じた。
- ・各校共通の課題が多いためより情報共有の必要性を感じた。
- ・「改革を成し遂げている」「生徒募集に成功している」学校の先生方とのディスカッションや、実務に携わる教員の意見を聞きたい。幹部クラスの教職員の「学校法人としての指針や取組」、前線で実務を担当する教員の「肌で感じている学校の現状」その双方の意見を聞いてみたい。
- ・来年度も参加したいと思った。
- ・管理職に参加させたいと思った。

次年度は
ホテル日航姫路（兵庫県姫路市）において
令和7年11月27日（木）～28日（金）に開催致します。